

適性検査Ⅱ

注意

1. 指示があるまでこの冊子きょうしを開いてはいけません。
2. 検査時間は四十五分間です。
3. 声を出して読むではいけません。
4. 解答はすべて解答用紙に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
5. 受験番号や氏名などを解答用紙の決められた欄らんに記入しなさい。

1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

数年前のことですが、私わたしはある雑誌でこんな話を讀んだ覚えがあります。

日本人の[※]インテリが中国へ行つて、中国の子どもたちにウサギとカメの話をしたら、子どものほうから、どうしてカメは眠ねむっているウサギを起こしてやらなかったのか、と質問されたというのですね。

話した人は、思いがけない質問にめんくらうと同時に、おくれた仲間に協力の手をさしのべるのが正しいのではないかという子どもの主張を、もつともだと受けとつたのです。

この報告を聞いて、同感し、私たちも反省しなければいけないといった人もありましたが、反対論はんたいろんは見受けられません。読者のみなさんはどう思いますか？

話を「むこうの小山のふもと」までの「かけくらべ」でなく、オリンピックのマラソンに変えてみましょう。これまで先頭を走っていた選手が、スタミナをなくしてとうとう道ばたに腰こしを下ろしてしまいました。あとからくる選手はどうすべきでしょうか？ そのまま全力をあげて走りつづけるのが正しいのか、それとも走るのを中止して腰を下ろしている選手に手をさしのべ、いっしょに走れるように努力するのが正しいのか、——こう考えてくると、中国の子どもの主張も何かおかしく思われてきませんか？

協力の手をさしのべるべきだという主張を、野球の試合にあてはめると、投手はできるだけ打ちやすい球を投げるように、打者はできるだけとらえやすい球を打つように、自分のチームばかり点をとるのではなく相手のチームにもとらせるようにしなければいけない、ということになってしまいます。

中国の子どもの主張に感心した日本のインテリは、ウサギとカメの競争の話は知っていても、競争とはいったいどういうことかを理解していなかったのです。

私たちは駅の前や学校の近くで、電車におくれまい、学校に遅刻ちこくしまいとして走っている人たちをよく見ます。ここにも競争と同じような、ぬいたりぬかれたりするかたががあります。この場合にころんだ人がいたならば、ころんだ人に協力の手をさしのべるのが正しいことはいうまでもありません。

けれどもウサギとカメや、オリンピックのマラソンは、おたがいに約束をし、ルールにもとづいて走っているのです。それぞれは自分の持っている全力を自分なりにだし切ろう、相手に手をかしたり、かりたりするようなことはしないと、はじめから約束してあるのです。

まだおさなくて、競争がルールにもとづく行動であることへの理解に欠けている子どもが、ウサギとカメの話に自分たちの集団生活の道徳をもちこんで、協力すべきだと主張したのはほほえましいまちがいでした。しかしこの主張を正しいもののように受けとった日本のインテリの失敗は、ほほえましいというわけにはいきません。

他人の主張したことを、いつもそれと似たさまざま事実の中で吟味ぎんみしてみる訓練があったなら、すぐおかしいと気づくような失敗だからです。子どもの主張をきいたときはウツカリ同感しても、あとで冷静に考えてみるなら気づくはずの失敗だからです。

(三浦つとむ『1たす1は2にならない』)

※インテリ……頭の良い人、知識層ちしきそう
※吟味……物事をくわしく調べて選ぶこと

問題 1

——線部に反対する理由を、文章の言葉を用いて六十字以内でまとめなさい。

問題 2

この文章を通じて筆者が伝えたかったことを四十字程度でまとめなさい。

問題 3

筆者は、子どものまちがった主張を正しいもののように受け取ったことを失敗とらえています。あなたにも、これまでに失敗をした経験があるでしょう。そのうちの一つを具体的にあげ、その失敗はなぜおきたのか、または、その失敗をどのようにして乗りこえていったのか、その失敗からどのようなことを学んだのかといったことを五百字程度で書きなさい。なお、題名や名前は書かずに、原稿用紙の使い方にならって、一行目から書き始めなさい。また、段落だんらくをかえたときの残りのます目は字数として数えなさい。

